

チツソ元工場長が出廷

水俣病裁判 初の証人尋問

熊 地 裁

初の証人尋問として注目される水俣病裁判の第九回口頭弁論は四日午前十時二十五分から熊本地裁民事三部（斎藤次郎裁判長領り）で開かれ、三十四年当時のチツソ

水俣工場長西田栄一氏（○印）が東京都杉並区善福寺・現チツソ監査役1の証人尋問が行なわれた。この頃、原告の患者たちを乗せたバスが水俣町で接触事故を起こ

し（分力人なし）ため、開廷は予定より二十五分遅れた。「人殺し」のバズを浴びて証人第一号の西田工場長が入廷、斎藤裁判長

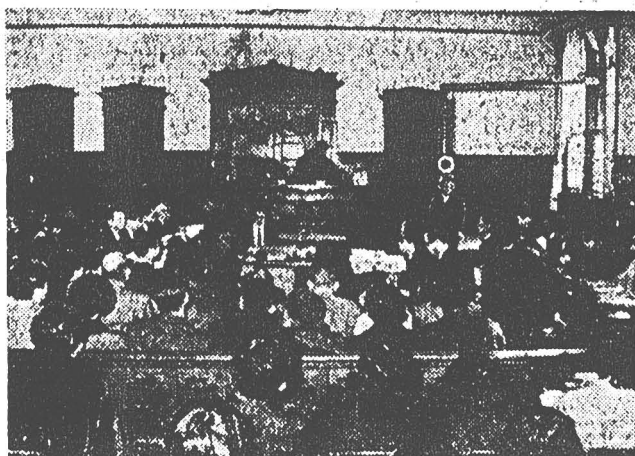
予て最も盛んだった三十年七月から三十二年十二月まで工場次長兼技術部長、三十二年一月から三十

四年五月本社へ転任するまで工場長だった人。午前中の尋問は当時工場内で行なわれた動物実験（ネコ実験）を中心に進められ、原告側弁護団は

西田証人が工場長として、どの程度実験について知っていたかを追及した。西田証人は肝心な点になると「記憶がない」と答えたため傍聴席から盛んにヤジがとび、裁判長がたびたび制止した。しかしこの尋問で、西田証人は

①実験は水俣病原因追及のため三十二年五月から始め三十二年後半から社長の了解を求めて付属病院と技術部が一体となっていた行なった実験の責任者は工場長で、経緯などについては病院と技術部が行なり連絡会議（研究班会議）のあ

と細川病院長から報告を受けていたことが明らかになったが、五日もさらに午前中原告側弁護団が尋問、午後から被証人尋問は同日午後四時まで行なわれ、原告側弁護団が反対尋問する。



裁判官が入廷の瞬間。右側立っているのが西田証人（○印）